

令和 6 年度国立国会図書館の書誌データに関するアンケート結果の概要

1 アンケートの概要

目的：国立国会図書館が作成して提供する書誌データについて、主に国内の図書館・関係機関における利用状況及び改善要望を把握し、サービスの質的向上、業務の改善及び利活用促進の検討に資するため。

対象：主に国内の図書館・関係機関

期間：令和 6 年 8 月 1 日（木）から 11 月 30 日（土）まで

有効回答数：735 件

（館種別回答数）

館種	公共図書館	大学図書館	学校図書館	専門図書館	その他	回答総数
回答数(件)	366	204	89	55	21	735

2 回答内容の分析（集計結果は別紙参照）

○書誌データの利用状況

- ・「利用している」と回答した割合は、全体の 8 割であった。（Q2-1¹）
- ・利用目的は、「目録作成・蔵書管理」が最も多く、次いで、「レファレンス」が多かった。（Q2-3）
- ・ダウンロードについては、「ダウンロードしたことがない」が最も多く、書誌データを「利用している」と回答したうちの約 4 割を占めていた。（Q2-4）
- ・ダウンロードする際のデータ形式は、「MARC 形式（ISO 2709）」が最も多かった。（Q2-5）
- ・利用する理由は、「データを無償で利用できるから」が最も多く、次いで、「書誌情報が充実しているから」、「品質を保証された信頼性のあるデータだから」、「データ件数が多いから」の順に多かった。（Q2-6）
- ・利用していない理由は、公共図書館では「民間 MARC を使っているから」が最も多く、大学図書館では「国立情報学研究所（NII）の NACSIS-CAT を利用しているから」が最も多かった。また、「知らなかったから」が全体の約 2 割、「利用方法がわからなかったから」が全体の約 1 割あり、情報発信に課題があることが分かった。（Q2-8）

○「全国書誌データ検索」等の「国立国会図書館サーチ」サブ画面の認知度

- ・サブ画面を「知らなかった」という回答が約 6 割を占めた。（Q3-1）
- ・サブ画面を知ったきっかけの大半が、国立国会図書館ホームページの情報であった。（Q3-2）
- ・サブ画面で便利だと思う機能は、「国立国会図書館が作成した書誌データのみを手軽に検索・ダウンロードできる」、「複数の書誌データを一括ダウンロードできる」、「複数の ISBN によって書誌データを一括検索できる」の順に多かったが、「わからない」の回答が約 3 割あり、サブ画面の利便性に関する情報発信に課題があることが分かった。（Q3-3）

○当館への意見、要望

- ・当館書誌データの利用に当たっての不便・不満は「特になし」が約 5 割で、次いで「書誌情報が十分ではない」、「書誌データの作成・提供が遅い」の順に多かった。（Q2-7）
- ・当館に期待する取組は、館種を問わず「無償提供の継続」が最も多く、次いで「信頼性・品質の維持」、「詳細な書誌情報の提供」の順に多かった。（Q4-1）

¹ 別紙の集計結果の項目番号。以下同様。